



2015

キャンパス・コンソーシアム函館
合同公開講座

函館学 2015

～ 新幹線時代のまちづくりへ～

第3回講座
講義資料

函館駅前大門地区をもっと住みよい街へ
～大門に住もうプロジェクト

渋田 昌士 函館大谷短期大学 准教授

日時：平成27年7月18日（土）午後1:30～3:00

会場：函館大谷短期大学 講義室

主催：キャンパス・コンソーシアム函館

講師略歴

渋田 昌士

函館大谷短期大学 コミュニティ総合学科 准教授

函館市宝来町生まれ、函館育ち。

函館市内のIT系企業に就職後、現職に着任。

現在は、会社員時代の経験を活かし、情報科学および秘書学を主に教えている。

情報科学ではプログラミングの基礎となる考え方から、実際のプログラミングまで教えている。

秘書学は、社会にでてから役立つよう、ビジネスマナーを中心に授業を行っている。

そして昨年、函館都心商店街振興組合の「大門に住もう！プロジェクト」に学生とともに参加。

街の将来のために、中心市街地活性化の必要性を強く感じる一年となった。

函館学 2015

函館駅前大門地区をもっと住みよい街へ

～大門に住もう！プロジェクト

◆◆◆ 講演内容 ◆◆◆

なぜ今さら「大門に住もう！」なのか。ここを出発点として、“街なか”に住んだほうが良い理由や、“街なか居住”のためにしておかなければならない準備などを、他の街の事例を参考にしてイメージを作って行きたいと思います。

普通に考えたなら、“街なか”に住むより郊外の広い土地に住んだ方が環境的にも時間的にも有利だ、と考えると当然だと思います。しかしそれは“今”だからできていることであって、将来自分の子供、孫の時代になっても同じことができる保証はないのです。

私たちは、“今”を便利に生活するために、そのツケを将来へまわしていることに気付いていないし、“今”がそこそこ便利な時代なので、街の将来のことなど考えようとしなのが現状なのではないでしょうか。

そして将来にツケをまわさないための最良の方法は、“今”から“街なか居住”に対しての準備を積極的に行うことです。“街なか”に住むとことはすぐにできることではなく、住むための準備には膨大な時間を必要とします。そして何より街全体が“街なか居住”を推進していこうという雰囲気になっていかなければ、“街なか居住”などできることではないのです。

◆◆◆ 本日の流れ ◆◆◆

■ 現在の街の問題点はどこにあるのだろうか

■ 函館市の都市計画ってどんなものなのだろうか

・ 長野市のまちづくりをみてみよう

・ 青森市のまちづくりをみてみよう

■ 大門に住もう！プロジェクトの報告